

「知の創造」を柔軟かつダイナミックに支援

総合研究推進本部を創設

京都大学におけるあらゆる分野の自由で卓越した「知の創生」を支え、必要な研究活動の適正な分析に基づく戦略的な研究推進や体制を強化するため、専門人材を含む教職協働による新たな次元の支援組織として2025年1月に総合研究推進本部が創設されました。下記ミッションを遂行し、研究推進に係る総合マネジメントを実施していきます。

- 研究活動の分析・評価
- 研究戦略の提案、研究企画
- 研究支援
- 研究環境の整備
- 研究インテグリティの確保
- 多様な専門人材の確保・育成



柏原正樹数理解析研究所特任教授、高等研究院特定教授がアーベル賞受賞

—世界の追随を許さない唯一無二の独創性—

京都大学はこれまで、アジア最多のノーベル賞受賞者を輩出するなど、世界に誇る独創的な研究を積み重ねてきました。2025年5月、その研究力を象徴する新たな快挙として、数学界のノーベル賞と称される「アーベル賞」を、本学の柏原正樹特任教授が受賞しました。柏原特任教授の深い洞察と独創的な発想が、世界の数学界から高く評価されました。



©Thomas Brun, NTB/ The Abel Prize

がん免疫研究の新たな拠点、始動

2024年11月12日、がん免疫総合研究センター（CCII）の研究拠点である「がん免疫総合研究センターブリストル・マイヤーズスクイブ棟」の竣工を記念する開所式が執り行われました。がん免疫における国際的な研究拠点を標榜し、象徴的にデザインされた本棟には、基礎・臨床をまたがるがん免疫研究者が集結し、がん克服に向けた革新的な知の創出に取り組んでいます。



白眉センターが創立15周年を迎えました

京大独自の若手研究者の育成「白眉プロジェクト」

—他にない京大の自由を求めて世界中から若手研究者が集い切磋琢磨—

京都大学では、白眉センターの運営により、自由かつ独創的な発想で課題に挑戦する若手研究者を、学術分野を問わず世界中から募り5年間支援する、本学独自のプログラム「白眉プロジェクト」を実施しています。同センターの前身組織が2009年9月に設置されて以降、2024年度に創立15周年の節目を迎えました。この間、28の国・地域から述べ257人の若手研究者を受け入れ、世界の「Hakubi」として若手研究者の登竜門となっています。



若手研究者とScience編集長が語る「研究のこれから」

KyotoU Future Commons Dialogue Series を開催

2025年3月、京都大学の若手研究者 (Early Career Researchers) と米国科学振興協会 (AAAS) /Science編集長が一堂に会し、研究の発信や環境、国際的なキャリア形成などについて語り合う座談会を開催しました。本企画は、研究と社会をつなぐ対話の場「KyotoU Future Commons Dialogue Series」の一環として実施されたものです。未来の科学を担うECRたちが、自らのビジョンを共有し、グローバルな視点で議論を交わす機会となりました。



ビジュアルブック「KyotoU Future Commons」

京都大学では、125名の若手研究者の研究と想いをまとめたビジュアルブック『KyotoU Future Commons Visual Book』も公開しています。未来社会を形作る研究の多様な姿を、ぜひご覧ください。

京都大学アカデミックデイ2024を開催しました

対話を根幹とした京大:学問と社会をつなぐオープンイベント

京都大学では本学の研究者が来場者と直接対話することで、本学の研究活動を分かりやすく説明するとともに、本学における研究活動に国民の声を反映させることを目指して「京都大学アカデミックデイ」を開催しています。今年度は2011年度の開始以来初めて2回開催し、学部・大学院生含む194名 (50組) の研究プロジェクトが対話の場に参加、来場者は述べ1217名に上りました。



「エイジング」に関する日独仏3大学国際共同プロジェクト

EHESS x Heidelberg x Kyoto トライラテラルプロジェクトのキックオフプログラムを開催

「エイジング」は人類にとって普遍的な現象ですが、その理解は学術分野ごとに大きく異なります。高齢化が顕著な日本に対する国際社会の関心の高まりも受け、京都大学はフランス社会科学高等研究院 (EHESS) ・ハイデルベルク大学 (ドイツ) と、学際的かつ文化横断的な議論を通じてエイジングの統合的理解を目指すプロジェクト「Mediating Plurality of Aging」(「『エイジング』の複数性をつなぐ」) を開始、2024年10月にキックオフセミナーと関連プログラムを本学で開催しました。本プロジェクトの重要な柱は、その横断的議論の継続と学界の将来を担う若手研究者の育成です。参加者からは、若手セッションやサイトビジット等を通じて大きな刺激を得たという声が寄せられました。2025年度はハイデルベルク大学で開催です。

